

		【修正日】平成30年 1月31日
【大分類】設計一般	【小分類】桁橋	【作成日】平成20年 4月 1日

【Q-7】

横桁設計時におけるせん断・ねじりに対する配筋について、原則的には横桁スターラップの中に横桁軸方向鉄筋を配置するべきであるが、その横桁軸方向鉄筋は主方向鉄筋の配力筋、片持ち床版の主筋を兼ねている場合が多く、横桁スターラップの内側に配置していないケースが多いが、これでよい。

【キーワード】 横桁, スターラップ

【A-7】

主桁設計時のスターラップ、床版支間方向の主鉄筋（橋軸直角方向鉄筋）などが主桁の最外縁に配置される。そのため、横桁スターラップの上縁側位置は橋軸方向鉄筋と同じ位置になり、橋軸直角方向鉄筋の下に配置されることとなる。横桁設計におけるせん断およびねじりに対する横桁軸方向鉄筋（橋軸直角方向鉄筋）は、スターラップの内側に配置するのが望ましいが、そうした場合には上縁側の橋軸直角方向鉄筋が2段以上となり、鉄筋が過密配置となることから、図-1としているケースが多数あり、横桁の軸方向鉄筋として扱ってもよい。ただし、各々の必要鉄筋量が満足しているかの確認が必要である。

横桁の側方鉄筋を横桁スターラップの内側に配置することで、軸方向鉄筋の一部を内側へ配置することは可能である。しかし大きなねじりが作用する特殊な場合などは、図-2のように上縁側橋軸直角方向鉄筋もスターラップの内側へ配置する等の方法が考えられる。

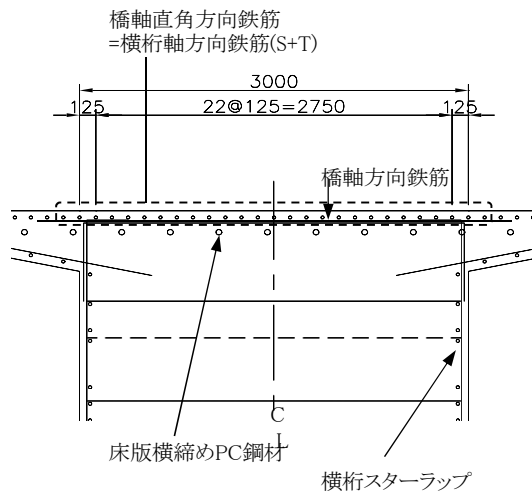


図-1 支点横桁の配筋例①(側面図)

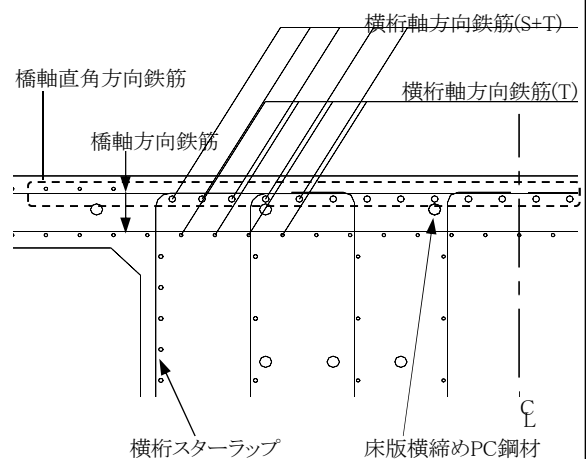


図-2 支点横桁の配筋例②(側面図)

【参考文献】

道路橋示方書・同解説Ⅲ:(公社)日本道路協会(平成29年11月)